

# つばさ川柳

## 願法みつる編（160号）

また年が改まります。各人の思いは様々でしょうが、健康と相談しながら、暦に合わせて生きて行きました。その間に、思い付くことを十七音に託しながら。

### 『自由句』

今日は晴れ明日も晴れるが気が晴れず  
蜂巢 徹

コロナ後の暮らしとやらが未だ闇

年明けにあれもこれもと欲が出る

人磨き響きはいいがむずかしい  
堀内今一步

悲喜美醜ヤバイに国語出番来ず

マンネリにマンネリ加え苦戦する

生き甲斐は煩わしさを済ます術  
若松 靖夫

あやかりたい寂聴愛子両淑女

煩惱があつて元気もいただけ

喋りたい全て話して腹凹む  
岡本詔一郎

心地良い老化の進歩酔い痴れる

食事中マスク美人も元の顔

四駆車を売って観戦冬五輪  
佐原 利幸

寅年に四股を踏ん張る亥年の身

注目を読み込んでいるへアー染め

ジタバタはやめて閻魔にコンニチハ  
末田 洋一

断捨離の進まない身に日が早い

三回目ワクチン接種また波乱  
反共の寝た子を起こす立と共  
暴走車いま老人が時の人  
S D G s 持続可能と辞めぬ都議  
傍観の身だが気になる諸外国  
老木の日々月々と握手する  
仙境はこんなものかと食減らし

谷井 修平

願法みつる

課題句『狙う』

願法みつる選

ミサイルに狙われている平和ボケ  
年寄りを狙う手口が進化する

末田 洋一

狙うものない老いの日の春のどか  
若ければなどと多欲をにが笑い

蜂巢 徹

大手紙へ意見を述べる小意見  
柵越えを狙った球は捕手フライ

佐原 利幸

復唱し上司の狙い確かめる  
自転車で当選狙うすごい奴

堀内今一步

狙っても言うこと聞かぬ石頭  
造りたい認知症カフェ自分流

岡本詔一郎

数狙い鳥合の衆は中身無し  
ひよっとしてひよっとするかも宝くじ

若松 靖夫

ゴミ置き場狙い定めるカラスの目

谷井 修平

爺婆の懐狙うサギの群れ

軸

龍宮の特等席を睨む亀

願法みつる

衛星の軌道へ放つ大花火

互選の面白味 その一

「川柳マガジン」という雑誌をご存知ですか。日本で唯一の川柳総合雑誌である。様々な企画で全国の川柳人を楽しませている。

令和二年から始まった懸賞川柳では、単一の課題に三十名もの全国で著名な川柳作家の選者による共選・互選で作品の位付けを行なっている。

共選では同一の課題を多数の選者が独自の選をするので、選句の多彩さを見比べるのも面白い。各選者の選句数は三才（天地人）、秀句（十句）、佳作（三十句）。いまや毎回の応募数は五千句近いとか。

最近の例を紹介します。課題「盗む」です。各選者による三才句の差異を見比べてください。安直な詠み込み句が意外に多いですね。選者の多様性が見えます。

選者 A

天 盗むなら日銀からと決めている

地 先人から盗むこの世の歩き方

人 盗み聞き玄関先の金魚鉢

選者 B

天 若者を盗み続ける大都会

地 九条の心を盗む疑似平和

人 温暖化盗んでいった青い森

選者 C

天 アラフォーの息子盗んでくれないか

地 ハーメルンの笛を盗んだのは未来

人 学生に巾着切りの意味聞かれ

選者 D

天 心打つ文脈ペンに記憶させ

地 木洩れ日を盗んで育つ森の種子

人 言の葉を盗めど生きた句にならず

選者 E

天 盗まれた花もやさしい色で咲く

地 夕焼けを持ち帰りたい一人部屋

人 僕の町盗んだ海は知らん顔

選者 F

天 いろいろと盗んで僕になっている

地 拉致された娘も島も還らない

人 あなたの背中に間違いはなかった

選者 G

天 戻らないコロナに盗まれた時間

地 ウチのスイカで収穫祭をするクラス

人 わがハート盗んだ人をいま介護

百六十一号の課題は『飲み会』。課題句二句と自由句三句をご投稿下さい。締切りは二月末日です。